

協働事業事例集

～市民と行政が共に力を合わせて～

平成23年10月
平塚市

この事例集は、平成23年度市民提案型協働事業「協働の情報発信」として、ひらつか自治体財政研究会と平塚市協働推進課との協働で作成しています。

協働事業の関連資料

協働の概要パンフレット・・・・・・・・・・「入門書 協働のススメ」

協働事業の詳しい内容・・・・・・・・・・「協働事業ガイドライン」

事業提案（募集）の方法・・・・・・・・・・「応募の手引き」

協働に関する提出書類・記入例・・・・・・・・「協働事業 提出書類集」

上記の関連資料は、市ホームページからダウンロードできます。協働事業の提案や実施の際の参考資料として、併せてご活用ください。

1 . 提案型協働事業 (平成22年度実施事業)

| | | |
|------|--------------------------------|------|
| 事例紹介 | ひらつか花アグリ花のある景観づくり事業 | P 2 |
| 事例紹介 | 地域に根ざした防災フォーラムの開催 ~今地域で何ができるか~ | P 5 |
| 事例紹介 | 男女共同参画推進紙芝居製作及び啓発事業 | P 8 |
| 事例紹介 | 地場産の花を理解する農業理解促進事業「花育」 | P 11 |
| 事例紹介 | こころと命のサポート事業「自殺対策啓発事業」 | P 14 |

2 . その他の協働事業 (平成22年度実施事業 抜粋)

| | | |
|------|--|------|
| 事例紹介 | 湘南ひらつかふれあいマーケット | P 17 |
| 事例紹介 | 平塚市中小企業経営支援事業 | P 18 |
| 事例紹介 | 市民向け講座等共催事業 | P 19 |
| 事例紹介 | ひらつか市民活動センターまつり | P 20 |
| 事例紹介 | 外国籍市民支援事業 | P 21 |
| 事例紹介 | 平塚市男女共同参画社会に向けた情報誌発行 | P 22 |
| 事例紹介 | 町内福祉村推進事業 | P 23 |
| 事例紹介 | 地球温暖化対策地域学習センターの設置と 体験型普及啓発・環境教育の仕組みづくり事業 | P 24 |
| 事例紹介 | 平塚市土屋頭無地区里山保全モデル事業 | P 25 |
| 事例紹介 | 美化推進モデル地区事業 | P 27 |
| 事例紹介 | 駅前参道修景促進事業 | P 28 |
| 事例紹介 | 花とみどりのモデル地区 | P 29 |
| 事例紹介 | 市民の手による公園愛護活動 | P 30 |
| 事例紹介 | 渋田川桜まつり・河内川あじさいまつり・鈴川鯉のぼりまつり | P 31 |
| 事例紹介 | 平塚市違反屋外広告物除去事業 | P 32 |
| 事例紹介 | 平塚市子ども読書活動推進フォーラム | P 33 |
| 事例紹介 | 村井玄斎まつり | P 34 |
| 事例紹介 | 博物館各種調査・研究普及事業 | P 35 |

3 . 提案型協働事業一覧

| | |
|-----------------------|------|
| 行政提案型協働事業 (平成21~23年度) | P 36 |
| 市民提案型協働事業 (平成23年度) | P 37 |

4 . その他の協働事業一覧 (平成22年度実施事業)

P 38

ひらつか花アグリ

花のある景観づくり事業

パートナー：明日の金田を創る会
 担当部署：経済部農水産課
 提案型：行政提案型協働事業
 事業年度：平成21～23年度

事業の目的と概要

花菜ガーデン（県立花と緑のふれあいセンター）の北側に位置する、古川排水路沿いの桜並木や県道平塚秦野線から市道寺田縄25号線の入口部分に花を植栽することで、ひらつか花アグリ（ ）に相応しい景観を創出し、魅力アップを図るとともに、地域住民に親しまれる拠点づくりを目指しています。

古川排水路沿いの桜並木では、菜の花（春）・紫陽花（梅雨）・マリーゴールド（秋）などを桜並木に植栽し、花菜ガーデン周辺を花のある景観として整えると共に、桜の魅力を引き出します。

また、県道平塚・秦野線から市道寺田縄25号線への入口部分では、進入路を整備した際の道路残地を利用して、ひらつか花アグリへの来訪者を四季折々の花で出迎えます。



花の管理は、もちろん植栽だけではありません。草刈りや水やりをはじめ、耕うん・追肥など、多くの日常作業が必要になってきます。このような作業には、明日の金田を創る会の会員であるたくさんのボランティアの方がこの協働事業を支え、活動を展開しています。

ひらつか花アグリ...花菜ガーデンを中心とした、農の体験・交流館、あさつゆ広場（大型農産物直売所）、湘南イチゴ狩りセンター、大型市民農園などの花き・農業体感複合エリア。

お互いの特性を活かした役割分担

行政の主な役割分担

事業のPRや広報等に関する支援、報告書等の印刷

団体の主な役割分担

花の植栽・草刈り及び日常管理、技術力の提供、ボランティアの募集及び共同作業

事業費とその主な内容

事業費と市の支出額

平成 21 年度 事業費 134,459 円（うち市の支出額 134,459 円）

平成 22 年度 事業費 188,029 円（うち市の支出額 188,000 円）

主な支出の内容

草刈り経費（耕うん機燃料、鍬・スコップ等小農器具類）、花類植栽経費（花苗、球根、種子等）、土づくり経費（堆肥、化成肥料）、事務費（紙、コピー等）

協働による成果

住民の手で、地域の魅力を引き出した景観を創造

古川排水路沿いの桜並木の周辺に、菜の花・ブルーサルビア・ひまわり・パンジー・ビオラなど、四季折々の花を植えることで、金田の魅力を引き出したひらつか花アグリを拠点としての景観の創造が果たされました。

若い世代の参加や研修会で会もさらに充実

平成 21 年度の活動で「若年層へのアプローチが弱い」といった評価を受け、平成 22 年度は中学生や高校生のボランティアの方にも参加していただきました。一緒に植栽や土に直接ふれることで、地域の方との交流や花の魅力に気付く機会となりました。

また、花菜ガーデンで研修会を実施するなど、協働事業を通して「明日の金田を創る会」の組織体制も充実してきました。



評価と振り返り（協働事業審査会委員からのアドバイス）

前年の課題をクリアし、次の活動へ

2 年目は、前年の課題（活動の勉強会や若い人の巻き込み）を克服し、ステップアップしていました。また、3 年目に向けて人材育成など、新たな目的に向かおうとする姿勢が素晴らしく、団体と市担当課との協力体制も良かったと思います。

平塚市の提案型協働事業の先駆けとなる

地域住民同士や、団体と行政などのネットワークの構築は今回の活動の一番の価値だと思います。団体を仲介することで、市民と行政の関係も良好のように見えました。平塚市の協働事業の先駆けとなる事業として、協働の輪が広がることを期待します。

パートナーの団体概要

500m続く花壇が私たちの活動拠点

県立花と緑のふれあいセンター（花菜ガーデン）北側の道路、古川排水路沿いの約500mの桜並木の下に花壇が続きます。ひらつか花アグリ of 景観を整えるとともに、桜の魅力をひき出すこの花壇が、私たちの活動拠点です。

四季折々の花いっぱい地域を彩る、金田地区の元気グループです！

金田地区の花を愛する有志が参加します。春には菜の花やパンジー、梅雨には紫陽花、真夏にはポチュラカ、秋にはマリーゴールドなど四季折々の花を植栽します。この花を咲かすために、草刈り、水やり、追肥など多くの作業を、地域の方・中高生の方などたくさんのボランティアの参加を得て実施しています。

パートナーの声

年間で36回の活動！8月の暑さを乗り越えるために5回も水やりを

花壇に季節の花を植え付けるため、4月から1月までは大忙しでした。これらの花をきれいに咲き誇らせるために、草取りや水やりは欠かせることのできない作業で、毎回30名から40名の会員やボランティアの方が活動に参加しました。

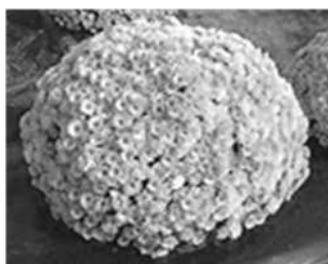
特に、夏の暑い時期は1週間ごとの水やりが欠かせず、大事な作業です。

きれいな花の景観で地域の魅力アップ！

古川排水路に沿った桜並木の下を、雑草が茂っただけの場所から、花いっぱい花壇に変え、地域に親しまれる「花のある景観」へと行政と協働で実現しました。

中高生にもボランティアに参加していただき、子どもから年配の方まで、多くの幅広い世代の方に親んでもらいました。

協働で花のある景観づくりを続けます



地域の方の参加も増え、この花のある景観づくり事業も多くの人に知られ親しまれており、次年度に事業の拡大を予定しています。例えば、桜並木の花壇の他、金田小学校の通学路等にプランターを置き、花いっぱいの範囲を拡大したり、地域住民にザル菊を提供し里親になってもらうなど、地域のふれあい創りを計画しています。

今回の協働事業を活かし、今後も花いっぱい魅力のあるまちづくりへと取り組みます。



地域に根ざした防災フォーラムの開催 ～今地域で何ができるか～

パートナー：ひらつか防災まちづくりの会
担 当 部 署：防災危機管理部防災危機管理課
提 案 型：行政提案型協働事業
事 業 年 度：平成21～22年度

事業の目的と概要

平塚市では、阪神・淡路大震災の発生した日（平成7年1月17日）を挟んだ1週間の「防災とボランティア週間」に合わせ、防災講演会・展示会等の事業を実施しています。平成21、22年度は、ひらつか防災まちづくりの会と平塚市が協働事業にて、自主防災活動の認識を深め、災害への充実強化を図ることを目的として「防災フォーラム」を開催しました。

フォーラムに向けての準備として、自主防災組織が何を求めているのか、何に悩んでいるのかを把握するために、全自治会を対象にアンケートを実施し、更に問題点を掘り下げるため、防災懇談会を開催し、自主防災組織の求めに合った、フォーラムを目指しました。

平成21年度は「支えあう地域を目指して」をテーマに、自主防災組織の先進的な防災の取り組み事例を紹介し、近隣自治会の抱えている課題を議論しました。

平成22年度は、前年度を踏まえ「今地域で何ができるか」をテーマに、自主防災組織が抱えている共通の課題について、解決に向けて動き出した団体を紹介し、自主防災活動を展開していく上での工夫を議論しました。



お互いの特性を活かした役割分担

行政の主な役割分担

防災活動の情報提供、フォーラムの広報、事業実施に係る会場の確保、自治会等への協力依頼

団体の主な役割分担

アンケートの作成・発送・集計、懇談会の開催、フォーラムの運営（講師及びパネリストの選出）

事業費とその主な内容

事業費と市の支出額

平成 21 年度 事業費 126,000 円 (うち市の支出額 126,000 円)

平成 22 年度 事業費 126,000 円 (うち市の支出額 126,000 円)

主な支出の内容

フォーラム講師・パネリスト・コーディネーター謝礼、交通費（地域訪問のバス代・駐車場代）、事務費（案内葉書、資料印刷・コピー等）

協働による成果

地域参加型の防災フォーラムの開催

地域で自主防災に関して抱えている課題を、アンケートや懇談会であらかじめ把握することで、フォーラムでは地域の求めに応えることができました。また、地域の助けとなる情報も提供できました。

さらに、パネリストからエールやアドバイスをいただくことで防災の輪が広がったり、中学生や高校生などの若い世代を巻き込んだり、自主防災組織の新たな展開が見られました。

団体の得意分野と行政の特性を活かして相乗効果

ひらつか防災まちづくりの会の地域防災に関するノウハウや、市民活動団体ならではの柔軟性や迅速性を活かした市民目線でのアンケートをはじめ、地域に向いて防災懇談会や地域インタビューを行うことで、自主防災組織の求めに合ったフォーラムの開催に結び付けました。



評価と振り返り（協働事業審査会委員からのアドバイス）

住民同士のつながりの大切さを再認識

フォーラムに多くの参加者があったことは大きな成果で、市民の防災意識の高さは、他市にも誇れるレベルだと思います。このような活動は、地域住民同士のつながりを形成する意味でも意義が大きく、東日本大震災のこともあり、その重要性は市民にも再認識されたのではないのでしょうか。

団体と市が力を合わせて事業を実施

限られた予算の中で費用対効果も十分で、成果の大きな事業だと思います。地域訪問や懇談会など、団体側の熱意がなければ実現は出来ず、また、市側は団体単独では賄いきれない広報費用を負担するなど、それぞれの役割を担っています。形はどうであれ、今後もこのような活動を継続して欲しいと思います。

パートナーの団体概要

地域・学校・子どもたちの防災力アップを目指します

市内外の多彩な経験や知識を持ったメンバーが、平塚で予想される災害にどう対応したらよいか、防災とは何かを地域や団体の方と一緒に考えています。

防災まち歩きや懇談会・研修会で地域課題に取り組む

災害はいつ、どこで発生するか予測できません。自分の置かれている環境を知り、災害についての知識やイメージを持つことが「自助・共助・公助」の防災対策を考えることへとつながっていきます。まち歩きや懇談会などで、それぞれ地域独自の情報交換や災害をイメージする手法・ノウハウを紹介しています。



パートナーの声

防災アンケートや防災懇談会で、地域ごとの防災情報を分析・比較

防災アンケートで、多くの地域が防災に関して何らかの問題を抱えている状況が浮き彫りになりました。防災懇談会では、各地域の課題や取り組みの工夫などの意見が交換され、このような話し合いの継続を望みたい等の声が多く寄せられました。

また、課題として「高齢化」「複数の役職を兼務」「役員の受け手不足のために防災対策に手が回らない」などの回答が多く見られました。これらのアンケートを分析し、見やすく、分かりやすくまとめるために、メンバーや市担当者と試行錯誤を繰り返しました。

防災フォーラムに410名が出席

アンケート・懇談会で得た地域の声や取り組み状況を、防災フォーラム（H23年1月）へと繋げました。「地域の防災力を高めよう」でコミュニティの大切さを、パネルディスカッションでは、中高生が参加する防災班や、狭あい道路での防災の取り組みなど各地区の取り組みを議論しました。自治会や自主防災組織など関係者410名の参加を得て、地域の防災意識を高める集会となりました。

協働の成功の秘訣は「丁寧な話し合い」

協働事業は、団体と行政が理解しあって取り組むことが理想です。現実にはお互いの理解や認識が異なる部分もありましたが、話し合いを繰り返す中でその違いを埋め、双方が納得できる形で実施することができました。特に文書作成では、見やすさや分かりやすさなどの表現方法も様々であり、手間でも丁寧に話し合い、十分に検討を重ねた上で作成することがとても重要だと思いました。

地域防災力のさらなる充実に向けて

東日本大震災では、これまでは気づけなかった自助・共助・公助、それぞれの課題も浮かんできました。防災力アップには、行政の対策も重要ですが、地域力の充実が非常に重要です。この震災で得た気づきを踏まえた、息の長い取り組みの必要を感じています。

男女共同参画推進紙芝居製作 及び啓発事業

パートナー：平塚てづくり紙芝居の会
 担当部署：市民部人権・男女共同参画課
 提案型：行政提案型協働事業
 事業年度：平成21～23年度

事業の目的と概要

ひらつか男女共同参画プラン2007では、人格形成の基礎となる幼児教育や学校教育は男女平等意識を醸成するうえで、大きな影響力があると考え、将来を担う若い世代に対して男女平等教育を重点的に進めていく必要があるとしています。



男女共同参画の意識啓発を推進するため、啓発用として手作り紙芝居「みんなのしょうなんアニメーレ」「ヒラヒラおばけとツカツカおばけ」「サンカクマントのサンカクさん」の3作品を製作し、幼稚園児・保育園児・小学生に実演します。

また、平成23年度は内容を発展させ、乳幼児に対して男女共同参画の意識啓発をすることの大切さと、紙芝居を実演する上での効果的な演じ方や技術・知識を保育士等に講義し、受講した保育士等実践してもらうことでさらに多くの児童への普及啓発を図ります。

男女共同参画社会の実現に向け、若い世代の男女平等意識づくりと教育の推進を図ることを目的として、市民活動団体である「平塚てづくり紙芝居の会」のノウハウを活かして協働で事業を実施しています。

お互いの特性を活かした役割分担

行政の主な役割分担

紙芝居の実演機会提供、紙芝居の講義機会提供、男女共同参画に関する情報提供、市民への広報

団体の主な役割分担

紙芝居の製作と実演(平成21～22年度)、紙芝居の効果的な実演方法等の講義(平成23年度)、市民への広報

事業費とその主な内容

事業費と市の支出額

平成 21 年度 事業費 79,309 円（うち市の支出額 79,309 円）

平成 22 年度 事業費 128,044 円（うち市の支出額 88,620 円）

主な支出の内容

紙芝居製作費（脚本・絵プロの指導謝礼、交通費等）、消耗品費（絵の具、色鉛筆、画材等）

実演経費（実演先までの交通費）

協働による成果

協働することで、対象に最も合った活動を提供

団体のノウハウやアイデアがあったからこそ、平塚を舞台にした物語で、子どもたちに身近で愛着をもってもらえるような紙芝居ができました。保育園児・幼稚園児、小学校低学年など、それぞれの対象年齢に合った作品をつくり、実演を見た子どもたちから「男女関係なく夢を持てばいいと思った」「男の子と女の子の夢が普通と逆でもいいのだとわかった」等の感想をいただきました。「性別に関わらず、その個性と能力を發揮できる」という男女共同参画の考え方について、子どもたちへの理解の促進が図られました。

事業の実施を通して、団体の技術も向上

紙芝居の製作という点からみれば、脚本・絵ともプロからの助言を受けて製作したことで、目的を十分達成することが出来る作品をつくり上げ、事業を実施することができました。団体としてもきちんとプロの指導を受けることで、紙芝居製作の技術力が向上したと思います。

協議を重ね課題を解決！協働の重要なプロセス

紙芝居の実演や展示に関して、著作権問題等の課題が生じましたが、お互いに話し合いを重ねることで、妥協点を見いだすことができました。市民活動団体と行政の考え方や立場などの違いを理解するためには、その都度話し合いの場を持つことが大切です。協議を重ねることでお互いを理解し、生じた課題を解決していくこと、それも「協働」の重要なプロセスだと考えています。

評価と振り返り（協働事業審査会委員からのアドバイス）

お互いの努力でより良い事業を実施

課題を乗り越え、一段と良い成果物ができたのではないかと思います。団体と行政との関係も、協働で行うことで出てきた問題を、よく協議し一つ一つクリアしていき、互いの努力が見えました。平塚でづくり紙芝居の会の皆さんが良い作品を製作しようという気持ちもわかったし、今後も平塚を舞台とした良い作品を多く作っていただきたいと思います。

協働で培ったノウハウを活かし、団体と市がそれぞれの展開へ

団体は「てづくり紙芝居」の手法を活かし、別のテーマへの展開も期待しています。また、行政は男女共同参画として、母子家庭問題、女性の働き方、ワーク・ライフ・バランス等のテーマでも協働のパートナーを見つけ、協働事業で培ったノウハウを活かし、事業展開をしてほしいです。

パートナーの団体概要

平塚の特色を活かしたオリジナル紙芝居を製作

平塚の歴史や文化などを楽しく分かりやすく伝えていくために紙芝居にしています。紙芝居の製作や実演で長年の経験を持つメンバーを中心に、会を設立して3年になりました。

地域に根ざした紙芝居で、幅広い世代に感動を共有

身近な地域の物語やお話を紙芝居で語りかけることで、子どもから大人まで幅広い世代で「喜び」を共有し、「楽しみながら」テーマを理解していただけるように心がけています。

パートナーの声

保育園、幼稚園、小学校など10か所で実演

地元平塚を舞台にした紙芝居として、3作品を製作しました。平成22年10月から平成23年2月までの間に10カ所の保育園・幼稚園・放課後学童クラブなどで実演し、約400名の方に紙芝居を見ていただきました。

1日に2カ所の保育園で実演することもあり、大忙しの日が続きました。大勢の子どもたちに囲まれ、笑顔と緊張で向かいあい語り合う楽しさ、とてもすばらしかったです。

協働で生まれた課題を話し合いで解決

製作した紙芝居の著作権（知的財産権）に関して、どちらが所有するのかという、協働で行ったからこそ生じた課題もありました。何回も話し合いを重ねて、双方の考え方の違いなどを確認し合いながら、お互いの妥協点を見つけることが出来ました。



このようにお互いの考えの違いを認めつつ協議を重ねることで、問題を克服できたことは、協働を通じて得た貴重な経験です。

今回は著作権の問題でしたが、行政と市民活動団体ではその立場の違いから、協働をする上でいろいろな問題が発生すると思います。協議を重ねることで、お互いの違いを理解することは協働の大事なプロセスだと思いました。

協働事業の中では、発生した問題に対してどう対処していくか、改善していくか、今回の経験を後に続く団体へ伝えたいと思います。

地場産の花を理解する 農業理解促進事業「花育」

パートナー：花育ボランティア花伝道師

担当部署：経済部農水産課

提案型：行政提案型協働事業

事業年度：平成22～23年度

事業の目的と概要

「花と緑にふれあいを持って、生命と自然についての理解を深める」ことを目的とし、有数の花き産地でもある平塚の利点を活かし、花き生産者および市の花育事業をサポートし、その魅力や楽しみ方を広め、花を通して地域に貢献するため、特産品のバラなど、多種多様な地場産の花を通じて、遊びながら植物を知ってもらう事業を、市民活動団体である「花育ボランティア花伝道師」と市が協働で実施します。

生産現場や、花とのふれあい体験を絡めたイベントを企画・運営し、地場産の花の魅力や楽しみ方を普及するとともに、小さい頃から花と親しむ機会を増やし、花が生活の中で身近にある環境をつくれます。



- ・地場産の花を使い、花の名前を覚える、花に触れる、花を植える、押し花づくりや絵を描く等の活動を通じ、児童や親を対象とした花育を実施し、「生命と自然の大切さ」を伝えます。
- ・生産者とのふれあい事業として平塚の生産現場を見学したり、子どもから大人までを対象として、花に触れ、親しんでいただく機会を提供する、地場産の花き植栽体験講座を行います。
- ・市内の飲食店や生産者等と協力して、地場産の花をテーマとした「花カフェ」の開催について研究を行い、花を通じてのコミュニケーションの促進と花関係者に対して事業展開の提案をします。

お互いの特性を活かした役割分担

行政の主な役割分担

広報活動や情報提供、花き生産者や関係機関等との調整支援、企画に対する助言・サポート

団体の主な役割分担

企画・調整、資材等の調達・準備、事業に必要な人員の配置、広報活動、事業の実施

事業費とその主な内容

事業費と市の支出額

平成 22 年度 事業費 233,384 円 (うち市の支出額 176,884 円)

主な支出の内容

花・材料費 (各企画用花材、培養土、肥料等)、講師謝礼、交通費 (保育園訪問、ツアー下見等)、消耗品費 (ポンド、和紙、コピー用紙、ラミネートフィルム代)

協働による成果



市民目線で平塚の魅力あふれる事業を展開

花き産地の利点を活かし、平塚の特産品のバラをはじめ多種多様な地場産の花を通じて、花が身近にある環境を提供するなど、楽しみながら花育の目的「花と緑にふれあいを持って、生命と自然についての理解を深める」ための活動が実施できました。

市民ボランティアが事業に大活躍！

花とのふれあい体験を絡めたイベントなどでは、地場産の花をPRする際に行政が単独で行うより、団体のボランティアと協働で一緒にPRを行うことで、市民がより親しみやすく、より身近な話に耳を傾けるなど、多くの方に参加していただきました。

協働の成果を活かして、新たなコミュニティの活性化も検討

この協働事業では、行政と市民団体はもとより、地元の花生産者にも参加いただいています。現在、八幡山の洋館前にて地場産の花を植えており、その管理をボランティアの方が行っていますが、花好きの団体や地域住民などを加えて、大勢の人が関わりを持つことで平塚産の花の普及につながり、また、コミュニティの活性化にも寄与できるような連携も検討していきたいです。

評価と振り返り (協働事業審査会委員からのアドバイス)

団体の熱い思いを協働で実施

民間ではなかなか入り込めないのが、幼稚園や保育園を対象にした事業は良いと思うし、花育はある程度の成果があったようです。花カフェや花の楽しみ体験など、多くの市民に花育活動を通して、花にふれあって欲しいという団体の思いが伝わってきました。

協働によるWin - Winの関係が大切

事業を振り返って、生産者とのコミュニケーションが少なかったことを課題に挙げていますが、協働の意義も考え、どうしたら良くなるか十分話し合っほしいと思います。Win-Win の関係 (相互に利益のある関係) をつくり、「メリットがある」ことの気付きを与えることが大切です。

パートナーの団体概要

花が大好きなボランティアの集まりです！

花が大好きな32人が集まり、「花育」に賛同してお手伝いをしています。毎週木曜日に市民活動センターで定例会を開き、いろいろな事業の実施に向けて、相談や活動の準備をしています。

勉強会で楽しみながらレベルアップ！花に触れ合う夢の実現

「こんなイベントがあったらいいな」という夢の実現を図っています。メンバーの花のプロフェッショナルが講師になり、押し花づくり、フラワーアレンジメントなどの自主勉強会を行ったり、花の生産者を講師に招いて植栽体験、苔玉づくりなどを学んでいます。

パートナーの声

花を通して命の大切さを！保育園、幼稚園での「花育」大好評

子どもたちが花に触れることで感受性を育てることができ、シードの物語を通して命の大切さ、種だけで育つのではなく、水・土や日光など自然の恵みが無ければ育たないことを学んだようです。

温室ツアーで生産者との触れ合いを実現

普段見ることのできない温室の中で、花がどのように栽培されていくのかを見学しながら、プロからのアドバイスに参加者も喜んでくれました。

花に飾られた洋館で憩いの空間を！

地場産の花を使って市民参加で八幡山の洋館に花壇を作り、道行く多くの人を楽しんでもらいました。維持管理はメンバー全員が当番制であり草むしりや水やりなど花壇の管理に奮闘しています。

また、花に飾られた八幡山の洋館の一室で、ミニブーケ作り等の体験後は、ゆっくりお茶を楽しんでいただく花カフェを開催し、憩いのひとときを演出しました。

イベントの参加者募集に苦労、花き生産者との連携の難しさ

当初は計画したイベントの参加者が少なく、参加者を集めるための方策に苦労しました。他の課との連携を試みたり、地元紙掲載の依頼をしたり、メンバー全員が手分けしてチラシ配りも行うなど、周知の徹底を図りました。

また、花き生産者とは、農水産課を介しての連携なので意思疎通が難しく、もっと交流を深めてお互いの理解を進めていけば、スムーズな協力関係ができていくと考えています。

たくさんの喜びを頂きました！

協働事業を通して大勢の人との出会いがあり、触れ合いの中でたくさんの喜びや感謝の言葉を頂きました。大変だった準備の苦労も報われ、私たちボランティアにはそれが何よりの励みとなり喜びとなりました。



こころと命のサポート事業

「自殺対策啓発事業」

パートナー：浜岳中学校区子ども読書活動推進協議会
 担当部署：市民部くらし安全課
 提案型：行政提案型協働事業
 事業年度：平成22～23年度

事業の目的と概要

平成20年7月に「平塚市民のこころと命を守る条例」が施行されたことを受けて、条例の目的である「市民が健康で生きがいを持って暮らすことができる社会」の実現を目指し、「こころと命のサポート事業」として、命の大切さや尊さについての普及啓発に取り組んでいます。

その普及啓発の一つとして、「子どもがすすんで本を手にとるまちづくり」を目標に読書活動の推進と、子どもに関わる大人たちの学校他各機関の枠を越えたネットワークづくりをすすめている「浜岳中学校区子ども読書活動推進協議会」と協働で、団体が行っている本や絵本を通じた活動の中に「命の大切さや尊さを伝える」という視点を盛り込み、地域の幅広い年代に普及啓発を図ることを目的に事業を行います。



具体的な取り組みとしては、命の尊さを伝える本のリスト作成、リストの本を活用した読み聞かせ活動、幅広い年代を対象とした落語会等の実施、自治会回覧を活用した広報等を実施します。

お互いの特性を活かした役割分担

行政の主な役割分担

書籍購入、消耗品の調達、ブックリスト・パンフレットの印刷製本、落語家への謝礼金支払、広報補助、運営補助、全中学校区協議会への配付、写真記録、他団体や他機関への周知

団体の主な役割分担

「いのちの尊さをつたえる本」のブックリスト・パンフレットの原稿作成、読み聞かせ活動、落語家との交渉、募集広報、参加者集約、当日運営、読書ネットを通じた情報提供等

事業費とその主な内容

事業費と市の支出額

平成 22 年度 事業費 40,004 円（うち市の支出額 40,000 円）

主な支出の内容

落語会講師謝礼、絵本、消耗品費（封筒、マジック）

協働による成果

団体の活動に行政の視点をプラス！行政の取り組みを支援

団体には本を通じた具体的な活動の中に「命の大切さ、尊さ」の視点を取り入れてもらい、市は広報・PR活動を中心に役割分担をしました。必要に応じて意見交換をし、命の大切さや尊さについて理解し、自己肯定感を持つ子どもたちを育てていくことが、長い目で見た自殺予防につながる、という大きな目的を双方で共有することができました。

市民のアイデアで幅広い世代が参加

「命の尊さ、大切さ」を視点に演目を選んでもらった落語会を実施しました。幅広い年齢層に満足してもらえるよう、子どもの部、一般の部の2回を開催、それぞれに楽しんでもらうことができました。



評価と振り返り（協働事業審査会委員からのアドバイス）

難しいテーマに団体と市が協働で取り組む

自殺予防という難しいテーマを双方で目的共有し、事業を進められています。小学生、中学生の段階で命の尊さを理解させ、短絡的な自殺行為に予防線を張ることは極めて意義のあることであると思います。「いのちの尊さを伝える本」などのブックリストにつなげたことも高い評価点であり、協働事業として良い成果が得られたと判断できます。

将来的には全市的な広がりへ

命の尊さ、大切さを伝える読み聞かせなどは他の小学校、中学校でもどんどんやるべきです。行政と団体との協議を活発にして、全市的な事業展開を図り、将来的には市内の他の学校への広がりを期待しています。今後も、本や絵本を通じ、命の大切さや尊さについて長く伝える活動を続けていってほしいと思います。

パートナーの団体概要

本の読み聞かせを10年以上続ける、地域密着で活動する団体です

地元の浜岳中学校区内の、花水小学校、なでしこ小学校、花水台保育園、花水公民館、なでしこ公民館、平塚工科高校、花水福祉村などで読み聞かせをしています。地区内の、読み聞かせボランティア5団体が参加します。また、学校図書館整備のボランティア3団体が、学校司書とともに「いのちの本コーナー」を設置し、児童生徒に利用を促しています。

子どもたちは、読み聞かせ体験を家庭に持ち帰り、団樂の中で大人たちと共有できています

目の前にいる子どもたちのために、生の声で読み聞かせ、読み手と聞き手と本の魅力が合わさって、本の世界の楽しさ、いのちの尊さを伝えます。大人の方には、落語家の話を通じていのちの尊さを伝えます。

パートナーの声

「いのちの尊さを伝える本」をリスト化！地域での読み聞かせ活動にも活用

数多くの絵本の中から、いのちの大切さ尊さを伝える本を選択し、本のリストを作成しました。メンバーで読んだ本は何冊になったのでしょうか。多くの本を読み迷いながらも、140冊を選びました。この本のリストは、浜岳中学校区内の学校へ配布し、読み聞かせなどにも活用されました。

嘶によって楽しく伝える

読み聞かせだけでなく、落語家の方をお願いして、いのちの尊さをテーマに落語会も行いました。小学生の部と大人の部の2回を開催し、幅広い年齢層の参加者へいのちの大切さを楽しく伝えることができましたと思います。

機関紙「えがおで本！」発行

この協働事業を知ってもらうため、花水地区、なでしこ地区の自治会に回覧する機関紙1,000部を2回作成し地域の方に広報しました。



この活動が他学区へも広がると素晴らしい

私たちが浜岳中学校区で活動している「命の大切さや尊さを伝える」事業は、ぜひ、もっと多くの人に知ってもらいたいと思います。

このような活動が、他の学校区に広がって全市的な取り組みになると素晴らしいです。

湘南ひらつかふれあいマーケット

パートナー：湘南ひらつかふれあいマーケット出店者会
担当部署：経済部産業振興課
事業開始：平成10年度

事業の概要

地場産業の紹介と活性化を図ることを目的として、平成10年度から湘南ひらつかふれあいマーケット(朝市)を開催し、地元でとれた野菜や魚、湘南ひらつか名産品などを販売しています。

この事業には出店者が積極的に運営に携わっており、行政は事務局を担っています。事業の実施にあたっては、開催日ごとの当番担当者や、年数回季節ごとに開催するイベントの担当者を出店者会が担う等、出店者会が積極的に運営に関わっています。

この結果、出店者が主体となった運営が実現し、市民参加の推進が図られ、より独創的な運営を行うことができます。



協働に至ったきっかけ・経緯等

当初は行政が主導して、湘南ひらつかふれあいマーケットを開催しましたが、出店者会が積極的に運営に携わることで、さまざまな魅力あるイベント等を開催することができ、現在は出店者会が主体となった運営となっています。

お互いの特性を活かした役割分担

行政の主な役割分担

事務局として出店者への連絡・調整、広報、資料の作成

団体の主な役割分担

出店者会として湘南ひらつかふれあいマーケット当日の運営

平塚市中小企業経営支援事業

パートナー：NPO法人 湘南経営支援パートナーズ
担当部署：経済部産業振興課
事業開始：平成16年度

事業の概要

国・県・市等の中小企業者に対する融資制度の紹介、申請書の記入指導をはじめ、経営革新計画を持って、経営の向上を図ろうとしている事業者や新たに創業する事業者のためのチャレンジアップ資金（無担保、無保証人）融資制度に関わる申請事業や融資後の経営指導などフォローアップに係る事業を行っています。

このことにより、様々な情報提供を図るとともに、中小企業者の利便性を高め、よりきめ細かい金融支援を実施していくことで、平塚市の産業活性化を図っています。

協働に至ったきっかけ・経緯等

国・県・市等の様々な金融支援事業を展開しているが、中小企業者の利便性にかなう支援体制として、それらを包括的に案内する金融総合案内窓口を設置し、専門的知識やノウハウを持つNPO団体に委託しています。

お互いの特性を活かした役割分担

行政の主な役割分担

金融総合案内窓口の場所提供、国・県等が実施する金融支援策に関する情報収集及び提供

団体の主な役割分担

国・県等が実施する金融支援策に関する情報収集及び提供、申請書の記入指導、チャレンジアップ資金に係る調査等及び融資後の経営指導

市民向け講座等共催事業

パートナー：市民活動団体
担当部署：市民部協働推進課
事業開始：平成16年度

事業の概要

市民活動団体と行政との共催で市民向けの講座等を開催しています。市民活動センターに登録している市民活動団体へ募集を行い、市民活動推進委員会で選考を行い、毎年4件ほどの事業を実施しています。選考は、広く市民を対象にしたもので、先駆性や公益性、市と共催することがふさわしい内容か、などが問われます。

その形式は、単に講座や講演会を行うものもありますが、フォーラム形式や来場者も参加いただけるワークショップ形式などさまざまです。活動の分野についても、福祉や環境、防災や子育て、色彩セラピーなど多岐に渡っています。

講座等共催事業の実施により団体の活動を広く市民に知ってもらおうと同時に、市民活動の活性化、また市民にとっても興味がある話題について学習する機会になっています。



協働に至ったきっかけ・経緯等

市民活動団体の活動を広く市民に知ってもらうことを目的に始めました。今でもその目的は変わりませんが、団体の活動に関連した有名な講師を呼び、自分たちが行っている活動の専門的な事柄を学ぶことができることも、共催する市民活動団体にとって大きな魅力になっているようです。

お互いの特性を活かした役割分担

行政の主な役割分担

講師謝礼の支払、広報活動、会場の確保、チラシの印刷

団体の主な役割分担

事業の企画、講師の選定、広報活動、当日の運営

ひらつか市民活動センターまつり

パートナー：市民活動団体

担当部署：市民部協働推進課

事業開始：平成17年度

事業の概要

市内の市民活動を、多くの市民に知っていただくことを目的に、平成17年から「ひらつか市民活動センターまつり」を開催しています。まつりの内容は、市民活動団体の日頃の活動の成果の発表はもちろんのこと、活動費を集めるためのバザーや、工夫を凝らしたパフォーマンスも実施しています。

また、まつりには、数多くの団体が集まり、各団体とも活発に交流を行い、団体間の連携にも役立っています。参加団体と来場者も平成17年は22団体、来場者260人であったのが、平成22年には52団体、来場者1,200人と、年々規模も大きくなり、会場も活動センターだけでは収まらなくなり、1階エントランス部分もお借りして、JA 湘南の販売店も参加していただくようになりました。



現在の実行委員会は、平成19年から団体が主体的に関わるように組織し、行政は実行委員会をフォローする形をとっています。

協働に至ったきっかけ・経緯等

当初は、行政が主導して、市民活動の発表の場として「たすけまつり」を開催。市民活動団体が主体的に開催したほうがよいとの声を受けて、平成19年から実行委員会形式を採用し、開催するようになりました。

お互いの特性を活かした役割分担

行政の主な役割分担

会場の確保、実行委員会への助言、資料の作成、関係官庁（警察、保健所、県）への申請手続

団体の主な役割分担

実行委員会の運営、まつり当日の運営と受付、資料の作成、会場の準備と片づけ

外国籍市民支援事業

パートナー：平塚市通訳・翻訳ボランティアバンク

担当部署：市民部文化・交流課

事業開始：平成19年度

事業の概要

平塚市には、4,609人（平成23年2月末現在）の外国籍市民が国籍、民族、文化の違いを越えて、家族の幸せを願いながら地域の中で暮らしています。

地域の外国籍市民にとって暮らしやすい多文化共生のまちづくりを進めるため、「平塚市通訳・翻訳ボランティアバンク」では、外国籍市民のために行政窓口などでの通訳・翻訳の公的サービスの提供を行うほか、地域や学校などで国際理解を深め、相互理解につながるよう母国文化の紹介などの事業を行い、外国籍市民と地域の交流を進めています。



「平塚市通訳・翻訳ボランティアバンク」は、平成11年に主に外国籍市民のボランティアが中心となって設置され、現在では登録ボランティア61人で9つの言語に対応しています。

協働に至ったきっかけ・経緯等

平成11年に主に外国籍市民が中心となって通訳・翻訳等のサービスを提供するボランティアグループが創られ、日本語が話せないまたは得意でない外国籍市民にも暮らしやすい多文化共生社会のまちとなることを願い、行政と協働して進めていく活動を開始しました。

お互いの特性を活かした役割分担

行政の主な役割分担

コーディネーター経費やボランティアの活動費の支援、ボランティア派遣の受付、研修会、情報交換会等の設定及び会場の提供

団体の主な役割分担

通訳・翻訳活動、研修会・情報交換会への参加

平塚市男女共同参画社会に 向けた情報誌発行

パートナー：平塚市男女共同参画社会に向けた情報誌編集委員会
 担当部署：市民部人権・男女共同参画課
 事業開始：平成6年度

事業の概要

男女共同参画社会の実現に向けて、それぞれの自立や平等に対する意識の高揚を図り、交流と連携を深めるための事業の一環として、ボランティアの市民、平塚市の職員ボランティアで構成する情報誌編集委員会により情報誌「まめ」の編集を行っています。

事業の実施にあたっては、月2回編集会議を開催し、事務局が会議の進行役を務めながら、意見交換を行っています。また、編集委員自身が男女共同参画を理解するために、研修派遣、資料配付等を行い、知識と技術が向上する機会を設けるようにしています。

その結果、市民の視点を反映した魅力ある情報誌を編集することができるとともに、市民をはじめ委員自身の男女共同参画に関する意識向上を図っています。



協働に至ったきっかけ・経緯等

情報誌「まめ」は、職員のみで編集していた「女性のひろば」をリニューアルし、市民や市職員から公募の編集委員で構成された編集委員会を設置し、平成7年3月に創刊しました。

お互いの特性を活かした役割分担

行政の主な役割分担

編集会議の進行、編集のための企画、取材、資料の収集・調査、レイアウト作成、その他編集に必要なこと

団体の主な役割分担

編集のための企画、取材、資料の収集・調査、原稿作成、その他編集に必要なこと

町内福祉村推進事業

パートナー：松原地区庁内福祉村運営協議会、花水地区庁内福祉村運営協議会、港地区庁内福祉村運営協議会、金田地区庁内福祉村運営協議会、岡崎地区庁内福祉村運営協議会、松が丘地区庁内福祉村運営協議会、城島地区庁内福祉村運営協議会、大神地区庁内福祉村運営協議会、八幡地区庁内福祉村運営協議会、（福）平塚市社会福祉協議会

担当部署：福祉部福祉総務課

事業開始：平成10年度

事業の概要

少子高齢化や核家族化等により高齢者の孤立化や子育ての不安など様々な問題が顕在化する中、誰もが安心して心豊かに生活を送るために、地域住民が相互に支え合い、助け合うという地域福祉の概念が重要になってきています。

このような状況の中、平塚市では地域住民と行政、平塚市社会福祉協議会（市社協）の協働により町内福祉村事業を推進しています。町内福祉村は、地域住民の主体的・自主的な参加を基本に、お互いに支え合い、助け合いながら地域に住む誰もが安心して生活ができる地域福祉の仕組みづくりを目的とし、現在、市内11地区に設置しています。

町内福祉村では、日常のちょっとしたお手伝いを行う「身近な生活支援活動」と、気軽に立ち寄れる憩いの場を作る「ふれあい交流活動」を活動の2本柱としているほか、福祉村ボランティア（地域福祉コーディネーター）による相談業務を行っています。また、それぞれの地区で、地域性や状況に応じた独自の活動も展開されています。

協働に至ったきっかけ・経緯等

町内福祉村の担い手は地域住民自らであり、町内福祉村事業は市の施策でありながら、地域住民の意欲や熱意がなければ成り立ちません。このことから、平成10年からの3年間でモデル地区として3か所を設置し、その設立過程での知見を生かしながら、その後の設立では地域住民と市社協との協働を推進の中心に据えて実施しています。

お互いの特性を活かした役割分担

行政の主な役割分担

事業の委託による活動費等の負担、拠点施設の確保、情報提供や設立・運営の支援

団体の主な役割分担

町内福祉村の仕組みづくり、福祉村ボランティアによる実践活動（地域住民）
ボランティアに関する活動支援、情報提供（市社協）

地球温暖化対策地域学習センターの設置と 体験型普及啓発・環境教育の仕組みづくり事業

パートナー：特定非営利活動法人 ソフトエネルギープロジェクト
担当部署：環境部環境政策課
事業開始：平成19年度

事業の概要

温暖化防止実践の拠点を設け、二酸化炭素排出削減に向けた取組をNPOと協働で実施しています。また、その拠点を利用して自然エネルギー、省エネルギーの普及啓発、環境教育もあわせて推進しています。

事業の実施にあたっては、目的、責任や役割分担等を明確にするため協定書の締結等を行ったほか、NPOや学校と信頼関係のある行政がそれぞれの間の調整・コーディネートを行いました。

その結果、適切な役割分担が実現されました。また、施設設置に当たっては、NPOが主体となって平塚市以外からの各種助成金の活用を図りました。一方で、事業の進め方などがNPOと学校・行政とでは大きく違うことについて、お互い理解できていない部分がありました。協定書に盛り込めない部分についてあらかじめどのように共通認識を持っていくかが課題となっています。

協働に至ったきっかけ・経緯等

NPOからの働きかけで市以外からの助成金を使い、学校へ施設を設置。その後、NPO・行政・学校で協議を行い、協定書の締結を行った。施設の完成後、完成式を実施した。

お互いの特性を活かした役割分担

行政の主な役割分担

団体・学校との調整

団体の主な役割分担

施設の設置、環境教育イベント（環境教室等）の企画・運営

平塚市土屋頭無地区 里山保全モデル事業

パートナー：里山をよみがえらせる会、
平塚市土屋頭無地区里山保全協会、他
担当部署：環境部環境政策課
事業開始：平成18年度

事業の概要

平塚市土屋頭無地区は、地区全体が典型的な里地里山の景観を形成しており、近隣の谷戸地区の農地と合わせて絶好の里山体験場所です。また、この地区は、かつては国蝶のオオムラサキが継続的に繁殖していましたが、斜面林であったエノキやクヌギが伐採されて以来荒れたままになっていました。そこで、この地区を里山保全モデル地区と位置づけ、荒廃した里山を市民との協働により復元することとしました。

市は、里山の再生、保全及び活用地として、平成18年度から山林を借り上げ、現在は、4名の地権者から10,510㎡を借り上げて、市民ボランティアや里山保全団体とともに年間5回の里山保全活動を実施し、散策路の整備や山林の下草刈り、間伐や保全していく樹木の名札掛け等を実施しています。



事業の実施にあたっては、地権者、里山保全団体、有識者等からなる土屋頭無地区里山保全協議会や公募市民ボランティア、ジュニア・リーダーの中高生が中心となって活動しています。また、近隣の山林や農地の地権者といった地域住民や地元自治会の理解を推進するために、定期的な事業報告会の実施やイベントの都度、回覧板等で活動内容を周知するなど、情報の共有を図っており、里山の整備等一定の成果をあげることができています。

協働に至ったきっかけ・経緯等

平成16年度17年度にかけて市は、西部丘陵地域の自然環境評価を実施しました。その結果、当地区は、最も里山らしさの残る地区として高い評価を得ました。

一方、ゴミの不法投棄や業者による開発の動きなどに危機感を感じ、自治会や行政がワークショップを開催して山林の調査等を行いました。



お互いの特性を活かした役割分担

行政の主な役割分担

協議会の事務局として、参加者への通知文書の作成、借り上げ地の管理、里山整備用資機材や消耗品の購入、里山講習会の実施

団体の主な役割分担

里山保全活動に関する市への専門的助言、里山講習会への講師派遣、人員の提供や資機材の貸与

美化推進モデル地区事業

パートナー：美化推進モデル地区

担当部署：環境部資源循環課

事業開始：平成18年度

事業の概要

平成18年10月施行の「平塚市さわやかで清潔なまちづくり条例」は、規制事項だけでなく、自主的な美化活動をする市民からの申請に基づき、美化推進モデル地区を指定し、その活動を支援していくことを規定しています。

これは、近年身近な環境に対する市民の関心が高まり、美化活動も自発的かつ活発になってきていることや、公募市民による条例検討会議の意見として、行政による市民活動に対する支援が必要と言われていたことによるものです。

指定されたモデル地区に対しては、行政として活動内容や活動による効果を検討し、関係課との連絡調整を行う等、物心両面にわたる支援を行っており、行政が中心となって行ってきた従来型の事業から脱却し、自発的な市民の活動を積極的に支援していく制度となっています。

協働に至ったきっかけ・経緯等

条例検討会議の意見として、行政による市民活動に対する支援が必要と言われていたため。

お互いの特性を活かした役割分担

行政の主な役割分担

清掃物品等の貸与、クリーンひらつか指導員の派遣

団体の主な役割分担

モデル地区内での美化活動

駅前参道修景促進事業

パートナー：大門ゆずり葉の会

担当部署：まちづくり政策部まちづくり政策課

事業開始：平成19年度

事業の概要

景観重点区域「都市のシンボル軸」にある八幡大門通りにおいて、平塚八幡宮の歴史を活かした景観形成の促進と、にぎわいのある参道づくりをめざし、地域の商店会や自治会、大学と協働でまちづくりに取り組んでいます。

平成20年度に大門会（商店会）の若手中心で構成された大門ゆずり葉の会が発足し、イベントを中心とした活動を開始いたしました。

平成21年度からは、平塚八幡宮のぼんぼり祭に併せて、「八幡大門ぼんぼりまつり」が開催され、ぼんぼりによる景観づくりが行われています。また、同年から、大門ゆずり葉の会の母体である大門会を中心に、東海大学や明石町自治会、平塚市との協働による大門通りのまちづくりに関する勉強会が開催され、具体的な方策が検討されています。

にぎわいづくりの一つの方策として、平成22年度には「かながわ朝市サミット」や「平塚大門なりわい博物館」、「公開シンポジウム」などの取組みが行われています。

協働に至ったきっかけ・経緯等

以前より地域の活性化を行いたいという八幡大門通り地区の住民と、この地域を市の中心になるべき地域として調査研究の対象と考えていた東海大学、同地域を景観モデル地区（現在は景観重点区域）に指定していた平塚市の三者の意思が合致し、総合計画の実施計画に位置付けられたことがきっかけであると言えます。当初は行政主導でしたが、現在では、団体の方で直接、東海大学とパートナーシップを組むなど、積極的な活動を行っています。

お互いの特性を活かした役割分担

行政の主な役割分担

景観形成に関する意識啓発、関係機関との調整、官公庁の制度等に関する手続き、法律に関わる助言、資料作成の補助

団体の主な役割分担

活動内容の企画・運営、資料作成、関係機関への各種要請、会場準備

花とみどりのモデル地区

パートナー：八重咲自治会

担当部署：まちづくり事業部みどり公園・水辺課

事業開始：平成3年度

事業の概要

地域の特性を活かし、うるおいのある街づくりを進めるため、地域住民の理解と協力による花と緑のモデル地区を指定し、その緑化活動に対し、草花、肥料等を配布しています。

モデル地区に指定された八重咲町自治会では、平成4年から八重咲町公園及び平塚駅前周辺においてプランターや地域花壇を設置し、街路樹帯も含めた地域各所に、年2回草花を植栽し、管理を行っています。植栽時には、地域中学校の生徒も参加し、地域住民と一体となって緑化の推進に取り組んでいます。

また、事業の実施にあたっては、行政と地元自治会が話し合いの場を設け、翌年度の植栽計画を決めています。街路樹等の緑と花木や草花が調和し、年間を通じた緑あふれる街づくりが進められています。

協働に至ったきっかけ・経緯等

昭和63年2月に策定した「平塚市都市緑化推進計画」において、「緑を創る」ためには地域の緑化が必要との考えから、この事業が位置づけられました。地区の選定においては、駅前であり、かつ、緑化モデル団体の活動が盛んであった八重咲町自治会の協力をいただき、現在に至ります。

お互いの特性を活かした役割分担

行政の主な役割分担

団体への助言、草花の手配及び配布

団体の主な役割分担

団体の運営、植栽活動及び植栽管理、清掃活動

市民の手による公園愛護活動

パートナー：平塚市公園愛護会連絡協議会、
市内各公園愛護会

担当部署：まちづくり事業部みどり公園・水辺課

事業開始：昭和48年度

事業の概要

公園が清潔で市民の憩いの場として機能するように、地域の住民により地域の財産である公園の愛護活動を行っています。これらの活動を行っている団体は、昭和48年当初は6団体でしたが、平成22年度現在は、約148団体にまで発展しており、日々、公園の健全な環境の維持及び向上に努め、利用者への公園愛護精神の普及に貢献しています。その結果、愛護会の活動が「地域の目」として、防犯やホームレス対策の一助ともなっています。



また、各団体の交流と活動の向上を目的として結成された平塚市公園愛護会連絡協議会では、より良い環境の公園づくりを通して住環境の向上を図るべく活動を進めています。

協働に至ったきっかけ・経緯等

地域の人々による自主的な清掃活動がされていたことから始まった。

お互いの特性を活かした役割分担

行政の主な役割分担

公園愛護会交付金の交付、意識啓発のために会報の発行、各団体の交流や活動の向上のため、市外研修や講習会等の実施、HP開設等の支援を行っています。

団体の主な役割分担

公園内の清掃活動、花壇の手入れや雑草の除去、遊具の不具合等の早期発見通報、公園内美化思想の高揚及び広報活動、公園愛護思想の普及及び実践活動。

渋田川桜まつり 河内川あじさいまつり 鈴川鯉のぼりまつり

パートナー：渋田川桜まつり実行委員会、
河内川あじさいまつり実行委員会、
鈴川鯉のぼりまつり実行委員会

担当部署：まちづくり事業部みどり公園・水辺課

事業開始：平成6年度

事業の概要

川をきれいにし、将来に残せるものにしたいとの思いから、ボランティアや地元自治会等が中心となって、川の草刈りやごみ拾いなどの清掃活動のほか、桜やあじさいの植栽を行ってきました。

また、川の大切さや自然の大切さを市民にアピールし、ふるさとに愛着をもってもらおうと、各団体がイベントを開催しております。

市では、このような水辺で活動する団体に対して、河川環境についての情報提供を行うほか、行政手続きの支援等を行っています。

協働に至ったきっかけ・経緯等

団体が主体的に川の清掃活動を行ってきました。その後、川の近くに樹木等を植えたいという団体からの要望を受け、河川管理者である県と協議を行い、団体に代わって申請手続きを行っています。（渋田川 平成6年～、河内川 平成10年～、鈴川 平成19年～）

お互いの特性を活かした役割分担

行政の主な役割分担

団体への助言、関係官庁（県）への申請手続、市ホームページによる団体紹介

団体の主な役割分担

団体の運営、清掃活動、イベント運営、資料作成

平塚市違反屋外広告物除去事業

パートナー：紅谷パールロード商店会、公園通り商店会、
紅谷BEロード会、湘南スターモール商店街振興組合、
一番街商店会、新仲商店会、公園通り新仲会、
二十四軒町自治会、富士見・旭・勝原・真土・金目・
みずほ・中原・崇善・港小学校・神田中学校PTA、
平塚をみかく会、神奈川県宅地建物取引業協会、
湘南ビューティーカレッジ

担当部署：土木部土木調整課

事業開始：平成19年度

事業の概要

道路における違反屋外広告物（はり紙、貼り札、立看板）の掲示は、まちの美観を損なうのみならず、特に風俗看板は、青少年の育成に悪影響を与えることとなります。このことから、年1回、中心市街地において協力員、企業（東京電力、NTT）神奈川県、神奈川県警察、平塚市の連携によって、クリーンキャンペーンを実施し、違反屋外広告物の除去活動を行っています。

この活動により、さわやかで清潔なまちを育て守る意識の醸成と、子供の安全確保及び地域の防犯効果など広域な波及効果が期待できます。

協働に至ったきっかけ・経緯等

市内のスクールゾーンごとに団体が自主的に活動を行ってきたが、平成16年5月から市及び企業との開催となった。更に、平成19年12月からは環境部のクリーン活動と合同の開催としている。

お互いの特性を活かした役割分担

行政の主な役割分担

開催日の調整、各団体との連絡・調整、除却協力員への資機材の貸出し

団体の主な役割分担

所属協力員への連絡、除却活動当日の参加

平塚市子ども読書活動推進フォーラム

パートナー：各中学校区子ども読書活動推進協議会

担当部署：社会教育部社会教育課

事業開始：平成19年度

事業の概要

子どもの読書活動推進に関わる講演や実践事例を通して、読書活動の重要性を広く啓発するとともに、子どもが読書に親しむための環境づくりに努めるため、平成19年度から実施している事業で、平塚市子ども読書活動推進計画【第二次】（平成22年2月策定）において計画事業に位置付けています。

絵本作家を講師としてお招きし、作品にまつわる話や、作者本人による絵本の読み聞かせ等を行っており、例年、小学校低学年の児童とその保護者を中心に定員を超える参加申込をいただいています。

実施にあたっては、各中学校区子ども読書活動推進協議会の図書ボランティア有志と行政が実行委員会を組織し、講師の選定、企画内容の検討、告知ポスターの作成及び当日の運営などを協働で行っています。



協働に至ったきっかけ・経緯等

本事業を実施するにあたり、市民の視点に立った考え方や市民ニーズを取り入れるため、子ども読書活動を推進する各中学校区協議会の図書ボランティア有志と実行委員会を組織することにしました。

お互いの特性を活かした役割分担

行政の主な役割分担

会場の確保、資料の作成、講師との連絡調整

団体の主な役割分担

講師の選定、企画内容の検討、ポスター・チラシの作成、当日の受付、会場案内、司会進行

村井弦斎まつり

パートナー：村井玄斎まつり実行委員会

担当部署：社会教育部社会教育課

事業開始：平成12年度

事業の概要

「村井弦斎まつり」は、明治から昭和初期にかけて、平塚市内に広大な敷地を所有して居を構え、食文化の向上と小説の大衆化に寄与した時代の先駆者・村井弦斎の遺徳を偲ぶとともに、地域のまちおこしとなることを目的に実施されている事業です。



この事業については、おこと・尺八の演奏、食通弦斎に因んだ料理教室など、毎年さまざまな催事を実施しています。

事業の実施にあたっては、どのような事業を行えば独自性のある事業運営ができるかとの観点から、組織体制の強化に取り組んだ結果、趣向を凝らした催事が行われるようになるなど、市民主体のまつりとして発展しつつあります。

協働に至ったきっかけ・経緯等

村井弦斎まつりは、博物館の特別展としてスタートしました。折しも翌年13年度には市制70周年事業の一環としてふるさと歴史再発見事業の中に村井弦斎まつりが位置づけられ継続して実施することになり、当事業の運営において平塚駅南側に広大な邸宅を構えた村井弦斎の功績を熟知し、また名産品の開発などの実績があった団体の関係者を中心として、「村井弦斎まつり実行委員会」が発足し、協働することになりました。

お互いの特性を活かした役割分担

行政の主な役割分担

会場の確保、実行委員会への助言や説明、資料の作成

団体の主な役割分担

実行委員会の運営、まつり当日の運営と受付、資料の作成、会場の準備と片付け

博物館各種調査・研究普及事業

パートナー：各種市民活動団体
担当部署：社会教育部樹物館
事業開始：昭和54年度

事業の概要

「相模川流域の自然と文化」をテーマに活動している地域の博物館として、地域をとりまく自然や身近な生活の中でのわからないことについて一つ一つ掘り起こし、いろいろな視点から見直していくための各種事業を展開しています。

内容は、天文、地質、生物、歴史、民俗、考古の各分野にわたる調査、報告書の刊行、展示やイベントの実施、収集した博物館資料の整理作業等です。事業の実施にあたっては、それぞれの分野やテーマで活動する団体と連携して進める場合や、広く市民に参加を呼びかけて参加者自ら調査に関わってもらい進めていく場合があります。いずれの事業もそれぞれの特性を活かし、多くの人が調査や作業に関わることで、多様な視点からより充実した内容となっています。

平成21年度は、平塚の空襲と戦災を記録する会、裏打ちの会、湘南コケの会、古代生活実験室など14のグループが学芸員とともに事業を推し進めました。

協働に至ったきっかけ・経緯等

博物館が実施した講座や観察会から、より深く学びたい、資料に関わりたいと希望するリピーターが生まれ、博物館でも地域調査や資料の整理において人を求めていることから、学びつつ事業をサポートする定例的な会として多くが発足しました。

お互いの特性を活かした役割分担

行政の主な役割分担

素材（実物資料）の提供、知識・ノウハウの提供、編集印刷、場所・用具の提供、広報

団体の主な役割分担

資料整理作業（分類、データ入力、ラベル作成等）、展示制作補助、イベント実施補助、資料の収集・採集

3. 提案型協働事業一覧

平成21年度実施 行政提案型協働事業

| | 事業名 | 担当部署 | パートナー |
|-----------|-------------------------------|--------------------|-----------------|
| 1 (P2) | 花と緑のふれあい拠点(仮称) 花のある景観づくり事業 | 経済部農水産課 | 明日の金田を創る会 |
| 2 (P5) | 防災講演会の開催 | 防災危機管理部 防災危機管理課 | ひらつか防災まちづくりの会 |
| 3 | 市民活動普及啓発事業 | 市民部協働推進課 | NPO法人 みんなでつくる平塚 |
| 4 (P8) | 男女共同参画推進紙芝居製作 及び啓発事業 | 市民部 人権・男女共同参画課 | 平塚てづくり紙芝居の会 |

平成22年度実施 行政提案型協働事業

| | 事業名 | 担当部署 | パートナー |
|------------|-----------------------------------|--------------------|------------------------|
| 1 (P2) | ひらつか花アグリ 花のある景観づくり事業 | 経済部農水産課 | 明日の金田を創る会 |
| 2 (P11) | 地場産の花を理解する 農業理解促進事業「花育」 | 経済部農水産課 | 花育ボランティア花伝道師 |
| 3 (P5) | 地域に根ざした防災フォーラムの開催 ～今地域で何ができるか～ | 防災危機管理部 防災危機管理課 | ひらつか防災まちづくりの会 |
| 4 (P14) | こころと命のサポート事業 「自殺対策啓発事業」 | 市民部くらし安全課 | 浜岳中学校区子ども読書活動 推進協議会 |
| 5 (P8) | 男女共同参画推進紙芝居製作 及び啓発事業 | 市民部 人権・男女共同参画課 | 平塚てづくり紙芝居の会 |

平成23年度実施 行政提案型協働事業

| | 事業名 | 担当部署 | パートナー |
|------------|----------------------------|-------------------|------------------------|
| 1 (P2) | ひらつか花アグリ 花のある景観づくり事業 | 経済部農水産課 | 明日の金田を創る会 |
| 2 (P11) | 地場産の花を理解する 農業理解促進事業「花育」 | 経済部農水産課 | 花育ボランティア花伝道師 |
| 3 (P14) | こころと命のサポート事業 「自殺対策啓発事業」 | 市民部くらし安全課 | 浜岳中学校区子ども読書活動 推進協議会 |
| 4 (P8) | 男女共同参画推進紙芝居上演 及び啓発事業 | 市民部 人権・男女共同参画課 | 平塚てづくり紙芝居の会 |

カッコ内は事例の紹介ページです。

平成23年度実施 市民提案型協働事業

| | 事業名 | 担当部署 | パートナー |
|---|--|---------------------|---------------|
| 1 | 市民活動団体間の連携強化と活動拠点の機能強化 | 市民部協働推進課 | ひらつか市民活動連絡協議会 |
| 2 | 協働事業の情報発信 | 市民部協働推進課 | ひらつか自治体財政研究会 |
| 3 | 小学生向け財政パンフレット作成 | 企画部財政課、 学校教育部指導室 | ひらつか自治体財政研究会 |
| 4 | 「地域猫」への取り組み | 環境部環境政策課 | 平塚のら猫を減らす会 |
| 5 | 里地里山保全活動による地域環境再生と共生社会の確立(グラウンドワークの推進) | 環境部環境政策課、他 | 土屋里地里山再生グループ |
| 6 | 一般家庭での生ごみ処理推進事業 | 環境部資源循環課 | ごみを活かす会 |
| 7 | 地域防災活動者研修の実施と防災ニュースの発行 | 防災危機管理部 防災危機管理課 | ひらつか防災まちづくりの会 |

4 . その他の協働事業一覧

平成 2 2 年度実施事業

| | 事業名 | 担当部署 | パートナー |
|-------------|-----------------|--------------------|-----------------------------------|
| 1 | 平塚市民・大学交流委員会事業 | 企画部企画課 | 平塚市民・大学交流委員会 |
| 2 | 自主防災組織支援事業 | 防災危機管理部 防災危機管理課 | 自主防災組織 |
| 3 | 平和意識普及・啓発事業 | 総務部行政総務課 | I LOVE PEACE 運営委員会 |
| 4 (P17) | 湘南ひらつかふれあいマーケット | 経済部産業振興課 | 湘南ひらつかふれあいマーケット出店者会 |
| 5 (P18) | 平塚市中小企業経営支援事業 | 経済部産業振興課 | NPO法人 湘南経営支援パートナーズ |
| 6 | テクノフェア推進事業 | 経済部産業振興課 | 湘南ひらつかテクノフェア 実行委員会 |
| 7 | 共感と創造のまちづくり事業 | 経済部商業観光課 | 共感と創造のまちづくり実行委員会 |
| 8 | 商業まつり事業 | 経済部商業観光課 | 商業まつり実行委員会 |
| 9 | 湘南ひらつか七夕まつり事業 | 経済部商業観光課 | 湘南ひらつか七夕まつり実行委員会 |
| 10 | 商店街にぎわい創出事業 | 経済部商業観光課 | 平塚市中心市街地イベント実行委員会 |
| 11 | TMO特別委員会事業 | 経済部商業観光課 | TMO特別委員会 |
| 12 | 湘南ひらつか花火大会事業 | 経済部商業観光課 | 湘南ひらつか花火大会実行委員会 |
| 13 | あきんど実践大学事業 | 経済部商業観光課 | あきんど塾 |
| 14 | 自転車体験教室 | 公営事業所事業課 | (社)日本競輪選手会神奈川支部 |
| 15 (P19) | 市民向け講座等共催事業 | 市民部協働推進課 | 市民活動団体 |
| 16 | パソコン相談会共催事業 | 市民部協働推進課 | NPO法人 ひらつかITサポート 湘南県西 SOHO ネット |
| 17 (P20) | ひらつか市民活動センターまつり | 市民部協働推進課 | 市民活動団体 |
| 18 (P21) | 外国籍市民支援事業 | 市民部 文化・交流課 | 平塚市通訳・翻訳ボランティアバンク |
| 19 | 国際交流関係事業 | 市民部 文化・交流課 | 平塚市国際交流協会 |
| 20 | 国内都市交流事業 | 市民部 文化・交流課 | 平塚市都市提携委員会 |

カッコ内は事例の紹介ページです。

| | 事業名 | 担当部署 | パートナー |
|-------------|---------------------------|-------------------|---|
| 21 | 国連思想普及事業 | 市民部 文化・交流課 | 日本国際連合協会 神奈川県本部平塚支部 |
| 22 | 交通安全啓発運動事業 | 市民部 くらし安全課 | 平塚市交通安全対策協議会 |
| 23 | 平塚市地域安全運動推進大会 | 市民部 くらし安全課 | 平塚市防犯協会 |
| 24 (P22) | 平塚市男女共同参画社会に向けた 情報誌発行 | 市民部 人権・男女共同参画課 | 平塚市男女共同参画社会に向けた 情報誌編集委員会 |
| 25 | 平塚市男女共同参画推進登録団体 との事業共催 | 市民部 人権・男女共同参画課 | 平塚市男女共同参画推進登録団体 |
| 26 | ひらつか男女共同参画 フェスティバル事業 | 市民部 人権・男女共同参画課 | ひらつか男女共同参画 フェスティバル実行委員会 |
| 27 (P23) | 町内福祉村推進事業 | 福祉部福祉総務課 | 松原地区庁内福祉村運営協議会 花水地区庁内福祉村運営協議会 港地区庁内福祉村運営協議会 金田地区庁内福祉村運営協議会 岡崎地区庁内福祉村運営協議会 松が丘地区庁内福祉村運営協議会 城島地区庁内福祉村運営協議会 大神地区庁内福祉村運営協議会 八幡地区庁内福祉村運営協議会 (福)平塚市社会福祉協議会 |
| 28 | 地域支援事業(介護予防事業) | 福祉部高齢福祉課 | 旭北介護予防推進会 日向岡分室 うきうき17 はつらつフレンド 旭南いきいきサークル 金田いきいきサークル 城島ふれあいの里 平塚市肢体障がい者福祉協会 みんなの広場 南原いこいの里 真土地域ふれあい会 豊田介護予防体操 岡崎鈴の里 |
| 29 | 子育て支援地域派遣事業 | 健康・こども部 こども家庭課 | 地域の子育てサークル |
| 30 | 健康づくり事業 | 健康・こども部 健康課 | 平塚市食生活改善推進団体 |
| 31 | 健康づくり推進事業 | 健康・こども部 健康課 | 平塚市健康推進員連絡協議会 |
| 32 | 健康フェスティバル事業 | 健康・こども部 健康課 | 健康フェスティバル実行委員会 |
| 33 | 献血推進事業 | 健康こども部 健康課 | 日本赤十字社神奈川県赤十字血液センター 市内ライオンズクラブ |
| 34 | 平塚市青少年国際交流事業 | 健康・こども部 青少年課 | 平塚市青少年国際交流事業実行委員会 ヒコーキ雲の会 |

4 . 提案型以外の協働事業一覧

| | 事業名 | 担当部署 | パートナー |
|-------------|--|-----------------------|--|
| 35 | 平塚市青少年指導員地区活動 | 健康・こども部 青少年課 | 平塚市青少年指導員 平塚市青少年指導員連絡協議会 |
| 36 | 平塚市成人式 | 健康・こども部 青少年課 | 平成23年平塚市成人式実行委員会 |
| 37 | 平塚市浅間祭 | 健康・こども部 青少年課 | 平塚市浅間祭実行委員会 |
| 38 | 放課後児童健全育成事業 (学童保育・保護者会運営、公益法人 運営、地域運営委員会運営分) | 健康・こども部 青少年課 | 放課後児童クラブ |
| 39 (P24) | 地球温暖化対策地域学習センターの 設置と体験型普及啓発・環境教育の仕 組みづくり事業 | 環境部環境政策課 | 特定非営利活動法人 ソフトエネルギープロジェクト |
| 40 (P25) | 平塚市土屋頭無地区 里山保全モデル事業 | 環境部環境政策課 | 里山をよみがえらせる会 平塚市土屋頭無地区里山保全協会 (上記市民活動団体を含む里山地権 者、土屋小学校長、土沢中学校長、 学識経験者) |
| 41 | ごみ減量化推進事業 | 環境部資源循環課 | 平塚市ごみ減量化婦人の会 |
| 42 (P27) | 美化推進モデル地区事業 | 環境部資源循環課 | 美化推進モデル地区 |
| 43 | 資源再生物回収に係る交付金 | 環境部資源循環課 | 平塚市資源回収協同組合 |
| 44 | 資源再生物買上制度 | 環境部資源循環課 | 市内全自治会 |
| 45 | 地区美化推進事業 | 環境部資源循環課 | 平塚地区美化推進委員長連絡協議会 |
| 46 | 景観重点区域「歴史軸」への取り組み | まちづくり政策部 まちづくり政策課 | 平塚宿まちなみ景観協議会 |
| 47 | 圏央道神奈川地区連絡会 | まちづくり政策部 まちづくり政策課 | 平塚商工会議所 湘南農業協同組合 その他市外関係団体69団体 |
| 48 (P28) | 駅前参道修景促進事業 | まちづくり政策部 まちづくり政策課 | 大門ゆずり葉の会 |
| 49 | ツインシティ(大神地区)環境と 共生するまちづくりを推進する検討 | まちづくり事業部 まちづくり事業課 | ツインシティ(大神地区) 推進委員会 |
| 50 | 真田・北金目地区まちづくり推進事業 (真田・北金目特定土地区画整理事業) | まちづくり事業部 まちづくり事業課 | 真田・北金目地区まちづくり推進協議会 (独立行政法人 都市再生機構) |
| 51 | 大浜地区土地区画整理事業の事業化 に向けた検討 | まちづくり事業部 まちづくり事業課 | 大浜地区まちづくり研究会 |
| 52 | 花とみどりの推進団体育成事業 | まちづくり事業部 みどり公園・水辺課 | 平塚市緑化モデル団体連絡協議会 |
| 53 | 花とみどりのまちづくり推進事業 (公園花壇の緑化推進) | まちづくり事業部 みどり公園・水辺課 | なでしこフラワーボランティア |

カッコ内は事例の紹介ページです。

| | 事業名 | 担当部署 | パートナー |
|-------------|------------------------|-----------------------|--|
| 54 (P29) | 花とみどりのモデル地区 | まちづくり事業部 みどり公園・水辺課 | 八重咲自治会 |
| 55 | 緑化まつり開催事業 (緑化運動の推進) | まちづくり事業部 みどり公園・水辺課 | 平塚市緑化まつり実行委員会 |
| 56 | 食肉センター跡地公園づくりワークショップ | まちづくり事業部 みどり公園・水辺課 | 寺田縄自治会 公募 |
| 57 (P30) | 市民の手による公園愛護活動 | まちづくり事業部 みどり公園・水辺課 | 市内各公園愛護会 平塚市公園愛護会連絡協議会 |
| 58 | 馬入花畑整備事業 | まちづくり事業部 みどり公園・水辺課 | 馬入花畑の会 |
| 59 | 馬入水辺の楽校支援事業 | まちづくり事業部 みどり公園・水辺課 | 馬入水辺の楽校の会 |
| 60 | 金目川清流こいのぼり鑑賞会 | まちづくり事業部 みどり公園・水辺課 | 川前校友会 |
| 61 (P31) | 渋田川桜まつり | まちづくり事業部 みどり公園・水辺課 | 渋田川桜まつり実行委員会 |
| 62 (P31) | 河内川あじさいまつり | まちづくり事業部 みどり公園・水辺課 | 河内川あじさいまつり実行委員会 |
| 63 (P31) | 鈴川鯉のぼりまつり | まちづくり事業部 みどり公園・水辺課 | 鈴川鯉のぼりまつり実行委員会 |
| 64 (P32) | 平塚市違反屋外広告物除去事業 | 土木部土木調整課 | 紅谷パールロード商店会 公園通り商店会 紅谷B Eロード会 湘南スターモール商店街振興組合 一番街商店会 新仲商店会 公園通り新仲会 二十四軒町自治会 富士見・旭・勝原・真土・金目・み ずほ・中原・崇善・港小学校、神田 中学校PTA 平塚をみがく会 神奈川県宅地建物取引業協会 湘南ビューティーカレッジ |
| 65 | 河川・排水路美化事業 | 土木部土木補修課 | 南金目・青柳自治会 真土連合自治会 土屋惣領分自治会 広川自治会 岡崎入山瀬土木 北金目・大久保自治会 田村7丁目水路緑道愛護会 |
| 66 | 農業集落排水事業 | 土木部下水道整備課 | 土屋地区農業集落排水事業推進協議会 吉沢地区農業集落排水事業推進協議会 |
| 67 | 平塚市通学路安全対策事業補助金 | 学校教育部学務課 | 自治会 小・中学校PTA 自主防犯組織 |

4. 提案型以外の協働事業一覧

| | 事業名 | 担当部署 | パートナー |
|-------------|------------------------------|----------------|---|
| 68 (P33) | 平塚市子ども読書活動推進フォーラム | 社会教育部 社会教育課 | 各中学校区子ども読書活動推進協議会 |
| 69 (P34) | 村井玄斎まつり | 社会教育部 社会教育課 | 村井玄斎まつり実行委員会 |
| 70 | 平塚市体育協会 | 社会教育部 スポーツ課 | 平塚市体育協会 |
| 71 | 平塚市体育指導委員連絡協議会 | 社会教育部 スポーツ課 | 平塚市体育指導委員連絡協議会 |
| 72 | 平塚市体育振興連絡協議会 | 社会教育部 スポーツ課 | 平塚市体育振興協会連絡協議会 |
| 73 | 学校体育施設開放事業 | 社会教育部 スポーツ課 | 学校開放運営協議会 |
| 74 | 各種スポーツ団体との協働による 各種事業の開催 | 社会教育部 スポーツ課 | 平塚市体育協会 平塚市体育振興連絡協議会 平塚市体育指導委員連絡協議会 |
| 75 | 平塚市総合型地域スポーツクラブ モデル運営支援事業 | 社会教育部 スポーツ課 | 港スポーツクラブ |
| 76 (P35) | 博物館考古部門 調査・研究普及事業 | 社会教育部博物館 | 平塚の古代を学ぶ会 古代生活実験室 |
| 77 (P35) | 博物館生物部門 調査・研究普及事業 | 社会教育部博物館 | 神奈川キノコの会 湘南コケの会 |
| 78 (P35) | 博物館地質部門 調査・研究普及事業 | 社会教育部博物館 | 平塚地質調査会 相模川の生い立ちを探る会 |
| 79 (P35) | 博物館天文部門 調査・研究普及事業 | 社会教育部博物館 | 天体観測会 星まつりを調べる会 |
| 80 (P35) | 博物館民俗部門 調査・研究普及事業 | 社会教育部博物館 | 民俗探訪会 石仏を調べる会 お囃子研究会 |
| 81 (P35) | 博物館民俗部門 調査・研究普及事業 | 社会教育部博物館 | ひらつか囃子太鼓フェスティバル実 行委員会 |
| 82 (P35) | 博物館歴史部門 調査・研究普及事業 | 社会教育部博物館 | 平塚の空襲と戦災を記録する会 裏打ちの会 |
| 83 | 危険物の取扱にかかる災害防止 | 消防本部予防課 | 平塚市危険物安全協会 |

カッコ内は事例の紹介ページです。

お問合せ・連絡先

協働事業は、行政と一緒にやる事業です。
企画の段階から一緒に考えていきましょう。
よい提案がありましたら、まずは協働推進課へご相談ください。

平塚市市民部 協働推進課 市民協働担当

〒254-0811

平塚市八重咲町3-3 JAビルかながわ2階

電話 21-7534 FAX 22-3037

E-mail : kyodo@city.hiratsuka.lg.jp